



地域包括支援センター職員に聞く

終末期の準備が必要な理由

あなたは、終末期の過ごし方を考えたことがありますか？

終末期とは

“人生の最期のとき”
“病気の最終段階”



家族を看取った経験があり、
いつも自分がどのように最期を迎えるかを考えている
子どもたちに迷惑をかけたくない…でもどうすれば…
人生最期のときって、実際どんな感じなんだろう…

講師：可児市・御嵩町
地域包括支援センター職員

地域包括支援センターでは、
高齢者ご本人はもちろん、ご家族や
地域住民からの相談やお悩みを適
切な機関と連携して支援しています。



日頃の経験を踏まえて、お話をさ
せていただきます。一緒に学びましょ
う！

2024年
9/17 火

14:00~15:00

ヨシヅヤ可児店1階
無印良品 店舗内
ミーティングルーム Room1
定員:10名

※申込多数の場合は抽選
※可児市・御嵩町在住者優先

お申込み

申込はQRコードから



<https://logoform.jp/f/Ahm39>

申込締切:9/10(火)

お申込みは
コチラ



主催

可児市・御嵩町
在宅医療・介護連携推進プロジェクトチーム

“かけ” つけます “そば” にいます

かけそばネット



問合せ先

可児市 高齢福祉課 地域包括ケア推進係
電話：0574-62-1111

Email koreifukusi@city.kani.lg.jp



「QRコード」は(株)デンソーウェブの登録商標です。



かけそばネットとは??

医療と介護の連携が進むとどうなるの?

患者・利用者の日々の状況が医療職(医師、看護師など)と介護職(ケアマネジャー、ヘルパーなど)で共有されるので、どの専門職に相談しても医療と介護を含めた話ができます。状況に変化があった時は、迅速に医療職・介護職の双方に状況が伝わり、適切な医療・介護サービスを受けることにつながるから、在宅で最期まで暮らし続けることが可能になります。

例えば

医師とケアマネジャーに相談したところ...

医師
運動は少し控えましょう。

ケアマネジャー
もっと運動できるようにしましょう。

? どうしたらよいのかと迷うことも...

連携ができていると...

ケアマネジャー この人に運動をさせたいのですが。

医師 この人は〇〇ですので激しい運動は控えたほうがよいです。

ケアマネジャー では軽めの運動をするように伝えます。

医療と介護の
まとまった指導が伝わる。

連携を目指して活動している

在宅医療・介護連携推進プロジェクトチーム

かけそばネット

「いつでも「かけ」つけます「そば」にいます」を合言葉に、地域の皆さんに寄り添う専門職が集まるかけそばネット。平成29年8月に可見市と御鷹町の合同で始まりました。

さまざまな専門職が集まって事例検討や研修を行っています。在宅医療や介護について知識を深めるだけでなく、医療(医師、歯科医師、薬剤師、看護師など)と介護(ケアマネジャー、ヘルパー、地域包括支援センターなど)の専門職が顔の見える関係づくりをしています。



かけそばネットのロゴマーク「人」という漢字を使い、臂が顔に合わせて円を畫くことで、ケアシステム全体の和(輪)をイメージしています。

こんな活動をしています



住民向け講演会

専門職が、入院から在宅生活への医療介護の連携を紹介



専門職の研修会

人生の最終段階における医療・ケアのあり方について勉強



あんどうクリニック
院長 安藤 文夫さん

専門職のみなさんへ かけそばネットに参加しませんか!

これからの在宅医療・介護には我々専門職が連携してそれぞれのケースに対応していくことが大切になってきます。

医療、介護の現場で活躍する専門職のみなさん、患者さんや利用者さんの望む生活を、私たちと一緒に実現しませんか?毎月第2水曜日の夜に活動しています。みなさまのご参加、お待ちしております。(次回は7/10(水)に医療・介護ワンコイン交流会を開催します)

問合せ かけそばネット事務局(高齢福祉課 地域包括ケア推進係内)



【広報かに 令和元年7月号】

在宅医療・介護の連携に意欲的に取り組む有志の「在宅医療・介護連携推進プロジェクトチーム」を募集し、平成29年8月にプロジェクトチームを立ち上げ、毎月定例的に会議を進めています。

現在は『様々な職種の方に「在宅医療介護連携」についての周知を図り、顔の見える関係ができることで、住民の在宅医療介護が円滑に進み、住み慣れた地域で安心した生活ができるようになる。』を目標に「多職種間の交流会」、「相互理解目的の研修会」等に取り組んでいます。

